

2人一組になって、週末の出来事を質問し合う児童たち。5日、名護市立真喜屋小学校



読んでる  
読学 NIE

琉球新報記者による出前講座「おでかけりゅうPON!」が5日、名護市立真喜屋小学校(平良正栄校長、児童数113人)で行われ、4〜6年生までの児童66人が参加した。

講座では、佐藤ひろこNIE推進室記者が、仕事に欠かせないカメラやパソコンなどの七つ道具を紹介。「道具よりも大切なのは、物事を知りたい」「読者に伝えたい」という記者の気持ち。授業で新聞を作る時も、読み手が何を知らなければならないか想像して作ってほしいと話した。

大城三太記者が、記事の内容をまとめた「見出し」の重要性などを伝えた。

## 伝える気持ち大切 名護市真喜屋小 新報出前講座

5年生担任の當銘直美教諭は「本物の記者に会えたことや、取材して記事が完成するまでの流れを見て、新聞をより身近に感じている様子だった」と話した。

授業の様子を伝える速報も配られ、児童らは目を輝かせながら見入っていた。